

# 白門四八会

中央大学学員会白門48会会報32号  
(題字:故 中央大学総長 高木友之助先生)

32

発行日:令和3年5月15日  
発行人:榎本真一  
発行所:中央大学学員会白門48会  
東京都千代田区一ツ橋2-6-3  
一ツ橋ビル4階 中央大学学員会事務局  
TEL:03-6261-1615  
印刷所:株ディスカバリー

48会の  
みなさんへ

総長からのメッセージ

## 中央大学2021年春近況



中央大学総長

酒井正三郎

(四八会会員)

みなさん、こんにちは。酒井正三郎です。この度は「白門四八会」第32号にご寄稿の機会をいただきましたことにありがとうございます。

さて、早速ですが、新型コロナウイルス禍により学生の授業のあり方や教職員の働き方が大きく影響を受けている現下において、2016年度より着手された「中央大学中長期事業計画《Chuo Vision 2025》」は2020年度末をもって「計画」の前半期である第I期が終了し、2021年4月の新年度から後半の第II期が開始されました。ご承知のとおり、この5年間で「学部の改編・創設」に関しては、2019年度に「国際経営学部」と「国際情報学部」の国際系2学部がスタートし、現在のところ社会からの注目のもと、グローバルビジネスリーダーの育成ならびに情報化社会の諸課題の探求を目的とする各々の学部教育は、順調な発展を見せています。

また、「キャンパス整備計画」では、2023年のLow & Lowの都心における教育研究の展開を目ざして、茗荷谷(法学部)と駿河台(専門職大学院法務研究科/戦略経営研究科)の2拠点においてキャンパス施設の建設工事が進められています。また、多摩キャンパスにおいても、2020年4月に供用が開始されたグローバル館・国際教育寮に続き、この3月にはこれまで「学部共通棟」の仮称で呼ばれてきた《FOREST GATEWAY CHUO》が完成し、内外装とも従来の本学にはないタイプの建物としてモノレール駅前にとびきり斬新な威容を誇っています。

こうした成果をふまえ、2021年4月より始まった第II期では、いよいよ改革の本丸というべき研究教育における内実面の発展・充実にチャレンジする段階に至ってきています。法人と教学は一体となつて、《2025 and Beyond》を展望しつつ、残りの5年間における計画の完遂に向けて努力を傾注していかねばならないと決意を新たにしているところです。

以下では、本学の2021年春の近況として、特記すべきいくつかのことがらについて述べて、本稿に挨拶の責を塞ぎたいと思います。

まず最初は、2021年度入試についてです。今年度はコロナ禍の影響により、首都圏の大手私大の多くで志願者は大幅減少となりました。そのなかで本学の志願者は78,534人、2020年度比90・8%でしたが、他私大と比較すると減少幅は相対的に軽微なところで踏みとどまりました。

第2に、2020年度卒業式、2021年度入学式は、各キャンパスとも密を避けやや簡略化した形でありましたが、予定どおりの日程で挙行されました。

一方、新年度の授業は例年どおりの学年暦にしたがい、「対面」と「遠隔」をほぼ半々とする授業形式でスタートしていますが、ここに来て変異型ウイルスへの警戒感が強まるなか、再び「遠隔」の比重を高める方向に戻るべきか、いま難しい判断を迫られているところです。

第3に、今夏のオリンピック・パラリンピックへの本学関係者の出場状況についてです。現時点(4月12日)で現役・OB・OGを含めて7名(水泳部4名、フェンシング部2名、ボクシング部1名)が決定しており、今後バレーボールやハンドボール等の各部から複数名の選手選出が期待されています。ちなみに、「Chuo Vision 2025」に謳う目標人数は20名ですが、今後これに向けてどこまで追上げられるか、成行きを注目していきたいと思えます。

「次頁に続く」

スポーツに関連して、第4に、南平寮についてひとこと言及しておきます。昨夏一部合宿所に新型コロナウイルスのクラスターが発生し、大きなニュースになったことに鑑みて、今般大学として南平寮に近接した旧代々木ゼミナール寮を借り上げて改修し（直接には共立メンテナンスとの契約）、「南平第2寮」としてこの3月より共用を開始しました。この措置によって従来の一室4人体制から2人になり、コロナ対策としてだけでなく寮の居住条件としても格段の改善が期待されています。

なお、大学は昨年4月末、コロナ禍による授業のオンライン方式への切り替えにあたり、学生諸君に情報環境を整備し学びを継続してもらいたいという趣旨で、全員を対象に1人あたり5万円の返済不要の奨学支援金を支給（総額13億）しましたが、引き続き今年度も、学部・大学院・専門職大学院の全新生（約6,000人）に対して一律5万円の特別支援金給付を実施しています。また、これ以外にもコロナ禍による急激な家計悪化等を抱えた学生向けに「経済援助奨学金」を設定し、支援を行っているところです。

## コロナを超えるデジタル総会



白門四八会会長  
榎本 真一

白門四八会の皆様、お元気で  
すか、会長の榎本です。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、皆様とお会いできなくなつて早一年が過ぎてしまいました。この間、大学や学員会の行事の多くが中止となり、会の事業も殆ど実施できなくなり、真に残念で、忸怩たる思いです。大多数の国民にワク

チンが摂取され、社会的な免疫が醸成され、コロナ禍が一日も早く収束することを願うばかりです。

そんなコロナに振り回された一年でしたが、闇があれば光もあるもので、会にとつて一条の光を見つけました。それがZOOMによるオンライン会議です。ZOOMを活用すれば、幹事会



白門四八会幹事長  
佐藤 愛子

## 白門四八会の2020年度活動報告

2020年の始まりに古稀を祝う新年会を盛大に開催した時には、こんな事態が来るとは考えてもみませんでした。その後緊急事態宣言発出もあり、1年前の2月12日の幹事会・懇親会を最後に四八会の2020年度事業計画は全て延期もしくは中止となりました。毎年全国の会員が集う6月の定時総会・懇親会も対面が叶わず恒例のホテルをキャンセルし、総会決議も役員による書面審議に変えてご了解頂くことと致しました。9

月の函館大沼への古稀記念旅行の計画は、2021年度に延期としましたが是非実現出来る事を願っております。大学のホームカミングデーは中止、駅伝予選会・本戦も無観客開催となり、楽しみは半減しましたが、四八会では他の支部に先駆けて、オンライン（ZOOM）での幹事会や懇親会を早い時期から開催していただきましたので、予選会や本戦の後もTV観戦では収まらない面々が画面の向こうで侃々諤々盛り上がりました。

もその後の飲み会も顔を見ながら行うことができます。

我々の世代でもパソコンやスマホは、頑張れば使いこなせる通信ツールになっていきます。得意な人、苦手な人、それぞれ個人差はありますが、周りの若い人に恥ずかしながら教えることもできれば、オンラインでつながることができます。

総会でさえできるのではないかと、今年度の定時総会をオンラインで実施することになりました。

総会の開催は会則で決まっていることなので、どんな方法で

オンライン参加者は画面を通じてではありますが、様々な情報交換や近況報告をしながらお互いの安否確認をしています。参加登録は20名近くになり盛況です。諸事情で残念ながら参加出来ない会員の皆様にはミニ通信などのメールで情報提供などや、オンライン懇親会参加の呼びかけも続けています。オンラインは面倒だ、好きではない、環境が整っていないなど参加されない理由は様々なので、自由参加ですがメリットも多くあります。例えば、遠方の方、遅い時間に電車で帰宅するのを負担に感じる方、忙しく時間がとりにくい方等々、自宅で出入り自由なオンラインでの会議や懇親会

も実施しなければならぬのですが、これからのデジタル社会への対応を探る意味でも実験的なオンライン総会を決断いたしました。これは、幹事の皆さんの意見を総括しての判断ですが、全会員の皆様にもぜひご承諾をたまわりたいと思っています。

オンライン総会への参加については、最終ページにご案内が掲載してありますので、そちらをご覧ください。皆様のお顔を画面越しにでも拝見したいと心から願っています。

は気楽なので、今後は社会的にも広まって行くと思われまます。まさかこれほど長期にわたる人との交流が分断されるとは思ってもみませんでした。健康、安心安全を第一に考え我慢の生活を送る中では、新しい発見や楽しみ方も生まれてきます。この状況を嘆くばかりでなく、いかに新しい人生を手に入れるか、自分なりに楽しめるか挑戦されるのも面白いかもしれませんね。今後のワクチン接種などで感染や重症化が抑えられる事を期待していますが、これまでと同様な生活は送れないと皆感じています。

元気で再会出来る日を楽しみに、皆様ご自愛下さい。

第97回箱根駅伝  
テレビ観戦記

新倉 利明

【1区千守倫央君2年】

超スローペースで今年の箱根駅伝は始まった。昨年引き続き1区を任されたのはエース級の千守君だったが、心理的な影響もあるのか昨年同様終盤17.8kmの六郷橋上り口で先頭集団から離され、厳しいスタートとなった。(区間17位)

【2区森風也君3年】

トップから1分17秒差で襷を引き継いだ3年生エースの森君、第81回大会1区大ブレイキを区間3位の快走でジワジワと追い上げていった高橋憲昭選手の再来を期待したが、森君自身が目指す「速い選手よりも強い選手」に。捲土重来を期待したい。(区間16位)

【3区吉居大和君1年】



【4区三須健乃介君4年】



予選会でもチーム一位だったゴールデンキーは3区に登場。超負けず嫌いの性格と言われているので、18位の順位に前半の突っ込み過ぎを懸念していたが、最後は倒れこむように襷渡し。ほろ苦い箱根デビュー戦となったが、この経験を活かしてほしい。(区間15位)

【5区畝拓夢君4年】

3回目の山登りを担うのは畝君。しかし今年は四八会大平台応援団自粛のためか？ 調子が



【6区若林陽大君2年】

トップとは11分9秒差の復路線上げ一斉スタート。前のチームに追いついても実際は1分9秒後方というのだから観戦し難いこと甚だしい。小涌園前一斉スタート組では最も良い走りだ。往路の惨敗がりセットされたのか見た目16番目で襷を渡した。(区間5位)

【7区中澤雄大君2年】

高校時代「ロードの鬼」と称されていた中澤君。しかしテレビにはほとんど映らない。監督車のGPSと連動したスマホの「日テレ箱根駅伝速報マップ」を併用することにした。さすが鬼の中澤、順位を19位から17位に押し上げる。(区間5位)

【8区三浦拓朗君3年】

チャラッと映った後半の遊行寺坂でもさすが実力者の走り。順位を14位に。(区間7位)

【9区手島駿君3年】

往路とは逆に良い流れに。権太坂、横浜駅給水所と手島君も順調に追い上げる。(区間7位)

【10区川崎新太郎君4年】

もしや奇跡のシード権かと思わせる12位で襷はアンカーに。経験豊富な川崎君も快走だったが、シード権には届かない総合12位で復路を終えた。往路は19

上がらず順位を一つ下げ、シード権ほぼ絶望の19位で往路を終えた。(区間18位)

【11区】



あなたが中央大学に  
在った軌跡を

国会図書館に残しています！

国立国会図書館法(昭和23年法律第5号)により、国内で発行されたすべての出版物は、国立国会図書館に納入することが義務付けられており、2018年(平成30年)10月1日に発行された『白門48会20周年記念誌』が国会図書館に永久保存されています。

四八会メンバーのあなたが、中央大学に在った軌跡が、国会図書館に保存されていることを是非息子や娘たちに伝えてください。(左居康雄)



白門48会副会長  
中央大学学員会協議員

左 居 康 雄

(法学部卒)

白門48会幹事長  
中央大学評議員  
中央大学学員会幹事  
年次支部協議会副代表

佐 藤 愛 子

(文学部卒)

中央大学総長  
白門48会幹事

酒 井 正 三 郎

(商学部卒)

準硬式野球部

皆さんは準硬式野球という競技をご存知ですか？ 日頃親しんでいるプロ野球や大学・高校等での野球と何が違うのでしょうか。

野球に「準」するって何？

球場の規格が違うのか、出場選手が9人じゃないのか、等々思いつく浮かべる方もいるでしょうが、正解は使用するボールが違うのです。プロ野球等は硬球、我々の草野球は殆どが軟球ですが、準硬式はそのほぼ中間のボールを使います。軟式球は表面がゴムで中は中空ですが、準硬式球は中身が硬球と同様なのです。即ち握った感覚は軟球ですが、打った時の打球感は硬式とほぼ

同様です。

戦後間もなくこの準硬式球が開発され、軟式では物足りないが、かといって硬式では怪我や費用の問題等々もあり手軽には出来ない、という層の間に普及しました。紆余曲折はありましたが、現在では全日本大学準硬式野球連盟が結成され、全国各地でリーグ戦や全日本大会が行われています。

昭和22年に創部された中大準硬式野球部は全国屈指の強豪としてその名を轟かし、部員(30名前後)も殆どが春・夏の甲子園大会出場経験者です。昭和23年から始まった春・秋の東都大リーグ戦では64回、全日本大



(写真は昨秋リーグ戦での優勝の瞬間)

学選手権では60回の内13回の優勝を誇っています。

練習は厳しく毎日行われていますが、それ以上に力を入れているのが野球を通じての人間力形成です。殆どの選手が一流企業や官公庁に就職し、40数年に亘る秋田県三種町での夏合宿は町の夏の風物詩にもなっており、町内中学校野球部の指導も行っているなど町の皆さんとの交流も深まっているのも、この人間力形

成への信頼・評価が高い証とされています。

また、私事で恐縮ですが、毎年何かしらの差し入れを行っています。その都度選手諸君から礼状が送付され、その内容には感銘を受けますし、球場等で会っても礼儀正しく実に気持ち良く接することが出来ます。

リーグ戦は多摩地区の球場使用が多いのですが、神宮球場での東都大学野球や東京六大学野球と違い、試合前・中・後の球場整備や清掃等も選手が行い、厳しさの中にもアットホームな雰囲気伝わります。野球好きなファンには勝負を離れても楽しむことが出来る競技だと思います。

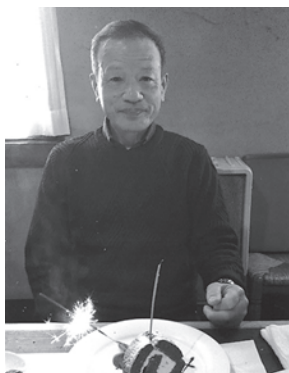
是非一度球場に足を運んでみてください。そして中大準硬式野球部に声援をお送りください。

とは畑違いだが、消防関係の資格を取得し、民間の防災センターで働いているが、意外に性に合っているようだ。一年一年が体力勝負と考え、心と体のバランスが崩れたら潔く辞めようと思っている。

今までやっていないことを始めようと思い、日記と秩父霊場巡りを始めた。三日坊主にならないよう、大袈裟なものではなく、日々の行動記録や雑感だが、字を書くことは脳の活性化にも

会員ミニ通信

近況・雑感・友へ



古希を迎えて  
思うこと

湯川 修

古希を迎えて、約二カ月が過ぎようとしている。人生100年時代と言うけれど、男性の平均寿命は81歳、健康で自立して生きられる「健康寿命」は72歳とのことである。もちろん個人差もあるので、一概には言えない。

自分の中では、持病もあるが、75歳と設定し、まずは健康維持が一番と思っている。生涯現役を目指し、コロナ禍でも変わらぬ、月に10日ほど仕事をしている。長年携わってきた損害保険

白門48会常任幹事

山下三雄

(理工学部卒)

白門48会幹事

中央大学学生会協議員

金子健治

(法学部卒)

白門48会幹事

新倉利明

(経済学部卒)

なるようだ。また、寺社を巡ることで、人や物との出会い、季節を感じ、歩くことも多いので体力維持にもつながる。  
 コロナ禍で、人とのふれあいが極端に減り、寂しい限りだが、一日も早く元の日常に戻り、皆様と再会できる日を待ち望んでいる。古希の記念旅行にも是非参加したいと思っている。



「科学技術と倫理」  
 の講義

山下 三雄

私は理工学部で客員講師として「職務経験を通して、技術者倫理について考える」をテーマに講義をしています。

ゼネコン時代に経験したプラジルのリゾートプロジェクトの企業化調査、広島での大規模都市開発事業（総事業費・約500億円）のプロジェクトマネジメント及び建設コンサルタント会社の東京支店長としての支店統括監理を通して、倫理の観点から問題があったと考えられる4ケースを採用しました。学生に色紙を配り、ケースごとにセーフは緑、アウトは赤、ハテナ？は黄を掲げて各自に判断していただく、全員参加型を進めています。

嘘・根拠の不確かなことは言わない、文書・データの改竄はしない、重要事項は記憶に頼らず記録に残し勝手に廃棄しない、上司に対する忖度は無用であり、明らかに間違ったことには大きな声を上げ、たとえ命令であっても答えはNO！を訴え（ついつい半世紀前にタイムスリップしてアジッてしま）ました。  
 大学時代はあくまで技術者能力を磨くのが本分ですが、法律・経済・経営・会計・金融等の文科系の基礎知識及び英語・中国語等の外国語を習得し、真の「ジェネラル&グローバル・マネージャー」を目指していただきました。また某旧帝国大学法学部卒業の官僚による日本の舵取りは完全な制度疲労を起しており、今後は政治的な思惑を排除して理科系の発想である「科学的根拠」に基づく政策が必須であるとの熱いメールを送っています。

古希を迎えて

山口 隆司



昨年11月にめでたく（めでたいかどうかわからないが）古希を迎えた。父親が六十代半ばで亡くなったこともあって、70年も生きてきたということが特に感慨深く感じられたものだ。考えてみれば（別に考えなくてもわかるのだが）大学を卒業してからもう50年になろうとしているわけで、この年齢になるのも当たり前ではある。ついにゴルフ場では利用税免除となり、この点だけはやけにうれしい気持ちだ。それと厚生年金保険料が天引きされないことも喜ばしい。気持ちも身体も若いつもりだったが、運動神経の衰えは隠せない。先日出勤時駅の階段を軽快に降りていた（つもり）が、一段踏み外し捻挫をしてしまい、激痛にしばらく動けない有様であった。駅員が近寄ってきて「大丈夫ですか？」と言ってきたが、こちらは「大丈夫なわけないだろう！」と思っていたが言葉も出なかった。今後は体力と気持ちと悟った出来事だった。もう一つ区切りになることが今年やってくる。6月末の退職である。これまで約48年間の会社勤めをやってきた身としては大転換になりそうである。黙っていたら会社に出勤し、たまに休暇を取って遊び、土日は休養か用事をこなしてきたが、これ

からは生活が一変することになる。これまではゴルフ、読書、スポーツ観戦、たまにボート、過去にゴルフと多趣味と思っていたが、どうもこれではもてあましそうである。と思い、過去プラモデル屋でのアルバイト体験を踏まえプラモデル作りでもトライしてみようかと考えている。ただ細かいところが見えにくいのがちょっと心配になる。家の中の位置付けも変わるだろう。これまでの「稼いで食べている」から「食べさせてもらう」になるわけで、家事の分担が必須となるのが予想される。まず風呂掃除を手始めにということか。  
 さて、最近触れなくてはならないのが新型コロナウイルスであろう。この1年あまりこの言葉を聞かない日は一日もない。天は人間にこの大きな試練という分岐点を与えたと思う。生活の様相が一変し、外で飲めない、人と話せない、旅に行けない、スポーツ観戦できない、花見も自重、〇〇はダメ、楽しいことは全部ダメ、と言われていたようである。しかし、この現実から逃避はできないわけで、ワクチンや特効薬を待ちつつうまく付き合っていく必要があるようだ。早く四八会の仲間ともじかに会って懇親を深めたいものである。

白門48会常任幹事  
 中央大学学員会協議員

山口 隆 司

(理工学部卒)

白門48会副会長  
 中央大学学員会協議員

川 名 まゆみ

(文学部卒)

白門48会副会長

水 野 勝 敏

(商学部卒)

## 令和3年遊びの目標



佐山 洋一

今年の正月は箱根駅伝で喜怒哀楽。70歳を過ぎ後何年元気に遊べるか。元気なうちに思い切り遊ぼうと、毎週一回はゴルフを楽しもうと計画を立てました。その為、寒さ対策でヒーター付きのチョッキを購入し、1月は4回。2月は4回行きましたが、チョッキのお世話にならずに済みました。

3月には、家内がレッスンに通っている北千住インドアゴルフのプロに金乃台カントリークラブでラウンドレッスンをしてもらいました。

ラウンド中にスイングをいじったのでシチャカメチャカになり、スコアはつきませんでしたが120以上たいたと思います。しかし、プロのスイングの美しさと飛距離は素晴らしく、バックティからでイイブンパアでホールアウトし、キャデーも久しぶりに良いゴルフを見たと言っていました。

2週間後に同じ所で同プロと二回目のラウンドレッスンを行いました。プロは子供が生まれたので睡眠不足との事で調子は

いまいちでしたが、私は前回の指導を注意して回ったらボギーペースで上がれました。ゴルフは週1ペース続けたいと思います。

先週、高尾山に行ってきました。6号路から高尾山に登り、尾根つたいに城山に行きそこから相模湖駅と5時間歩きました。今、コロナで外出自粛中であるにもかかわらず、人の多い事、登山口広場、高尾山山頂等団体登山者が多く心配ですが、早くコロナが収束することを祈ります。

### なんと再婚！

大橋 恒夫



コロナ禍において、昨年7月より46年勤務の会社もようやく非常勤となりまして、今はある職業団体の仕事が来年の6月までなので、それが終わると完全にフリーとなります。

今一番母校を応援しているのは野球と駅伝ですが、野球部は今シーズン心配です。今まではなんとか一部に残留しており一

昨年春にはなんと優勝でしたが、牧、五十幡が抜け投手力も他大と比べ弱く、7チーム総当たりにより2チーム降格という厳しい状況ですが、しっかりと応援します。また駅伝は今年の復路の状況があれば大丈夫でしょうが、とにかく予選で結果を期待したい。

プライベートな部分では昨年12月、1月での下手なゴルフですが、ホームコースでの月例競技でなんと連続優勝(Bグループですが)でした。

また妻を亡くし3年が経ち色々考えましたが、息子たちの了解を得て、これもなんと再婚しました。

これからは早くワクチンを接種して健康に注意しながら、四八会にもっとかわりをもちたいと思います。最後に早く普通の暮らしが戻ることを願います。

### 変化の中の四八会

三森 孝悦

誰がこんなコロナ禍の世界になると思ったでしょう？

昨年の新年会までは、兆候はあったとしても、普通に皆さんとお会いできていたのに。あれ以来皆さんでお会いすることはなくなりましたね。

昨年の緊急事態宣言下、恒例

の総会は中止になりましたが、幹事長の佐藤さんのご功労で、書面審議で出来ました。

そんな中、元会長の山口さんに声をかけ「何とかリモートで皆さんの顔だけでも会えるようにしたいものだ」と相談したところ、ZOOMならできるのではないかと提案されました。

そこで榎本会長含め、数名で、早々試行を始めた訳ですが、最初はすったもんだがありました。が、数回試行を重ね、昨年8月12日からオンライン幹事会が開催出来る運びになったのです。

既にそのオンライン幹事会も3月で7回目、途中正月にはオンライン箱根駅伝応援会も行い、オンライン懇親会(飲み会)も実現できました。

今では参加者も増え多い時は20名位になったのも四八会の皆さんの、柔軟さの賜物かと思えます。

このようなりモートでの参加は、外部の講演会やイベントに、家にながらいつでも参加できるようになり、視野が広がります。

世の中、時代の中で幾度か流れが変わる節目があります。今回も世界的な流れの変化が起こりました。仕事の流れ、旅の流れ、生活の流れなどが、コロナが収まった後でも、もう前みたいに全てが元のようになることはないでしょう。きっと将来

「コロナの前はこうだったね」などと話す時代が来るのでしょうか。

今までも時代はそうでしたからね。

我々四八会の皆様とのオンライン・ミーティングもミーティングの手段として、今後も続いてゆくでしょうし、今までなかなかお会いできていなかった、地方にいらつしやる方々とも、リモートでお顔を合わせてお話出来るようになる良い機会です、ますます楽しい四八会となる変化を生むでしょう。

我々これから高齢になってゆく中で(なつているか)新しい時代の流れに乗ってゆくことは、柔軟な頭を持続させることで、とても脳にいいことだと医者に言われています。

ただオンライン懇親会は、家で飲む安心感か、飲み過ぎの傾向があるのが難点ですが・。

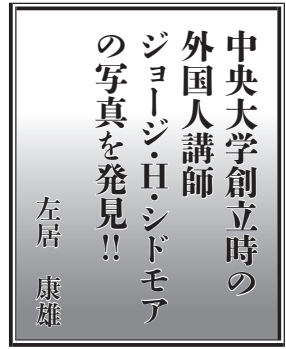


左から二番目が筆者



コロナ禍の  
雑感  
東海林 正

新型コロナウイルスが猛威を振るいはじめてから、あつという間の1年3ヶ月が過ぎました。自粛期間が過ぎ、第2次3次で多くの人命を屠り、今まさに第4次を迎えています。未知のウイルスの恐怖は尽きることがありません。慌てて1947年発表の『ベスト』（アルベール・カミュ）を読み返したほどです。年寄に憎いウイルスということ、感染、死亡リスクが派手に強調され奥方の目を盗んで、少人数の意見交換会を開くのがやつの体たらくでありました。逆風続きの2021年ではありませんが、この所で居直つて、2度ほどリアル講習会をのぞいてみました。神保町の一橋講堂でおこなわれた、水産多面的機能発揮対策シンポジウム里海保全と東洋経済のトップリーダーズカンファレンス2021・新M&A戦略などです。2件ともスピーカーが張り切っており、楽しく拝聴いたしました。この楽しみを長引かせ、少々のお酒を愛するために目指せコロナに勝利\*\*で頑張りたいものです。



中央大学創立時の  
外国人講師  
ジョージ・H・シドモア  
の写真を発見!!  
左居 康雄

1885(明治18)年に創立された本学の前身「英吉利法律学校」には数人の外国人講師が在籍していた。米領事館外交官の傍ら英米法の教鞭を執っていたジョージ・H・シドモアもその一人である。彼が本学から出版した『合衆国領事裁判訴訟法』は、当時の極東地域における領事裁判のバイブルとして権威ある著作と高く評価された。同時期の講師陣には日露講和条約(ポーツマス条約)の成立に貢献した外務大臣小村寿太郎時のルーズベルト大統領との友情と人脈を活かして対露和平調停に乗り出すよう説得した金子堅太郎も名を連ねている。兩名ともハーバード大学に留学した経歴から米国法律学士として講義を受け持っていた。中央大学は創立時から既にグローバル教育の下地を有していたのである。「縁は異なるもの」と云うがジョージ・シドモアが日本に駐在していたことから、妹エリザ・シドモアが兄を頼りに来日し、向島墨堤の桜並木の美しさ



ジョージ・シドモア

に感動し、後年の『ポトマック河畔』の桜植樹運動に繋がる。ジョージ・シドモアの写真は日本になく2019年9月に米国議会図書館でワシントン在住の友が7年越しで見つけてくれた。135年前の本学講師の威厳ある風貌である。  
(出典：中央大学大学史資料課)



コロナ禍から得た物  
坂本 賢一

昨年2月に横浜を拠点としたクルーズ船から始まった感染爆発は瞬く間に日本中を席卷して行った。五輪も延期となり、沈

鬱なコロナとの戦いは今も続いている。  
そんな中、怪我の功名と云えようか、ITスキルが思わぬ形で向上したのである。四八会のリモート会議への参加や、自分が主催する朗読の会のズーム会議の運営、そしてビデオ動画の作成等思わぬ技術が身に付いた。得た物は大きい。



三つの力  
菊田 和行

総会や懇親会の席で、必ず最後は中大応援歌の「ああ青春の若き日に」を合唱しますが、その音頭を取る役を度々指名されます。締めめの歌詞の「力!」の間に三拍子を挟み、繰り返し盛り上げて、後のエールに繋げる作法を用いています。



第19回 総会

例えば、70年安保闘争で入学式も無く、真の(?)学生生活に憧れていた時でした。地元の

母校学生サークルに勧誘され喫茶店で入会したのが「中大横浜会」で、現在は残念ながらOB会のみ存続する任意団体です。会員の中に現役応援団の先輩がいて公私共に可愛がられ、卒業後雑誌記者になったこの先輩に指導されたものです。

さて、三つの力ですが第一は「知識」で次が「継続」そして、第三が「若さ」と勝手に意味づけていましたが、還暦を過ぎた頃から「力」の種類を変えました。第一の「知識」はそのままにして、第二は「継続→経験」そして第三が「若さ→健康」に変更しました。学習塾の仕事柄、毎年卒業生を送り出す茶話会等の挨拶で、「継続から経験」「若さから健康」に変えた話をする、結構、生徒や保護者にうけます。

知識が乏しく若さ故に突っ走り、幾度も危険に遭遇し、何とか此処まで生き抜いて来ました。コロナ禍で変貌する世情ですが、以前と同じ私なりの生活習慣を守り、人混みで体裁だけのマスクをして健康(?)に生きている現在。因みに新型コロナウイルス重症化率上位の既往症の殆どが、私に当てはまります。それでも、自然体を貫いてストレスを溜めぬよう、毎日を過ごしています。皆さん、ご心配無きようー(誰も心配していないか。)

## 自粛生活の中での 楽しみ

金子 健治

新型コロナウイルス騒ぎも約1年余りになりますが、重症化危険年齢でもあり止む無く自粛生活を余儀なくされている方も多いと拝察します。

私は週1回の家内の買い物物の運転手、月1回と2ヶ月に1回のクリニック通い、その他ごく限られた機会での外出にこの1年終始しております。その外出もマスク・手指消毒液で防備しながら、また三密回避に気を遣い帰宅後は疲労困憊です(笑)。

そんな中、新発見したのは全国各地の名産品・名物料理の通販が驚く数ほどあることです。この冬で言えば、北海道の石狩鍋、秋田のきりたんぼ鍋、水戸の鮎鱈鍋、名古屋の味噌煮込み



水戸の鯉鱈鍋

うどん、下関のふぐ鍋、博多の水炊き鍋等々を購入し、それもその土地の名店と言われる店のなので、自宅に居ながらにして美味しく味わえることが出来ました。その他でも季節物の桃・りんごさらには長芋等々でも購入しましたが、これも産地によって微妙に味が違い面白かったです。

また、大学時代には理解し難かった当時名著と言われた社会科学系の本を中心に読む機会も増えました。学部では憲民刑等々個々の法解釈学が主だったためもあり、その根底にある法とは何か、法の歴史は、といった本を主に読んでいます。1年次に「法学」として履修したはずですが、恥ずかしながら全く憶えていない頭には、実に新鮮な感覚で入って来ます。

朝から晩まで読書という根気も無いのでまだ数冊ですが、これまでのものでは碧海純一著「法と社会」という昭和42年初版・現在55刷りの本と、これは平成30年初版ですが「法学の誕生」という本が印象に残っています。

前書は文化論から法を捉え、言語・宗教・哲学・政治等との関係から、文化の一部としての法の姿を理解出来る、現在においても全く古さを感じさせない、さすがに50余年読み継がれて来た名著です。

後書は、明治維新後驚くほどのスピードで近代国家の形成に成功したのは、西洋の法と法学の受容に成功したからとの観点から、明治初期における西洋式法や法学の運用が出来る法学家・官僚の教育・養成から発展の日本法学の誕生と変遷を、穂積兄弟・兄陳重は中大創立者の一人を通して描いた正に「坂の上の雲」の法学版です。

法学という学問が無かった日本において、法学受容に携わり西洋列強による植民地化の危機を防いだ明治日本人の能力・気概や、当初法学教育は外国人教師により英仏語のみで行われ、それを理解出来た日本人学生が多数いたこと、今では当たり前に使われている法律用語が江戸時代における漢学の素養から考案翻訳されたこと等々改めて知ることが出来ました。

そんなことで、この自粛生活の中でもこれまで無かった楽しみを知り、外出機会等々が減少しても何とかここまで過ごせて来ました。

コロナ禍はワクチン接種開始により「普通の風邪」への一歩を踏み出したように思いますが、取束迄はまだまだ時間が掛かりそうで、残念ながら四八会の諸行事は今年も開催されるか否か厳しい状況とのことです。

一日も早く皆様と元気でまた

お会い出来る日が来ることを祈念しております。

## 近時の雑感

瀬川 徹



日本のコロナ禍が始まってから一年が経過しようとしています。昨年の新年会以降、四八会の皆様とお会いする機会がありませんが元気で過ごしてしょうか。私は可能な感染予防策を講じながら仕事及び日常生活を元気に続けています。もともと、会食懇談やスポーツの自粛が求められ日常生活の「平穩」の重要性を改めて実感しています。

今日(3月11日)は執筆時は東日本大震災から10年です。私は石巻市の出身ですが、震災(津波)により知人、友人、街、母校の小・中学校を失いました。この10年で町の復興は進みましたが「コミュニティ」の復活はまだの様です。私たち四八会の仲間、この様な災害を経験し乗り越えてきました。現在のコロナ禍の戦いにも勝利すべく頑張りましょう。

白門48会副幹事長

三 森 孝 悦

(理工学部卒)

白門48会副幹事長

坂 本 賢 一

(経済学部卒)

白門48会常任幹事

中央大学学生会協議員

佐 山 洋 一

(経済学部卒)





皆様ご無沙汰いたしております。

コロナ禍によりルーティンの交流が途絶して早や一年、さすがに昨今はそのキツさを実感しております。現役の方々や学生たちはもともと厳しい状況下に置かれていたことは百も承知しておりますが、古希を過ぎて初めてのパンデミック経験に、つい怒み節も出てしまいます。

まずは予防に専念して周りに迷惑をかけないことを旨に日々を無為に過ごしているのが実状です。

とはいつても我々の世代は年に似合わず政治や社会の現状にどうしても敏感！老惨の身で困難極まる諸問題に蠅螂の斧を？ かざしております。



駄文を連ねましたが、早く皆さんにリアルに会いたいです！

古希を過ぎ、老人の部類に入れた感のある今日この頃です。

こどもの頃、近所のおばさんたちが70を過ぎていけば老人と思つたものですが、いざ自分がその年になると、そんな感じもしませんでした。ところが最近若い頃は、お茶(茶道)を少し習い、その後ゴルフを少しやりました。仕事は保険の仕事が長く、学生時代に勉強し過ぎていなかった、なかなか思うようにはいかず、早いうちにユーターンしたものです。地方に来たら営業も良かったが、事務等の仕事をすれば良かったかなと思っております。

学生時代はハイキング部に所属し、3年の夏休みに北アルプス10日間縦走をしました。信濃大町から野口五郎岳、燕岳、槍ヶ岳から新穂高温泉に下山しました。良い思い出です。

「俳句コーナー」  
 三橋 隆たかし 選  
 虫の音に風の音さえ鎮もりぬ 上原 秋雄(文卒)  
 「評」晩夏あるいは初秋、並木道か公園などの木々のある所で、夕方、強風が断続的に枝葉を揺るがし「風の音」が大きく響き渡っている。夕闇が迫り来るにつれて「虫の音」が聞こえ始め、増大している。あたり一面で鳴き続け、おおいづくすたくさんの虫の声(音)、すなわち「虫時雨」である。  
 響き渡っている「風の音」は、周囲を圧するその「虫時雨」に飲み込まれ、大きな「風の音」さえ静まった(＝鎮もりぬ)ように思えるのである。夏から秋へ移る自然のダイナミズムの一端を「虫時雨」を通して詠んだ優れた句である。  
 コロナ禍や春告げる場所両国で 坂本 賢一(経卒)  
 「評」「コロナ禍」の収束の見通しつかない中、3月になり暦の上では春の到来である。しかし、不要不急の外出自粛ムードが続いており、春の華やいた行まいは感じられない。  
 そのような折、両国で大相撲の春場所が観客を入れて開催されている。両国国技館には、色とりどりの幟旗が翻り、力士の熱い戦いが連想される。まさに「両国」が本場の意味で「春告げる場所」となっているのを実感させる秀句である。  
 富士の山裾野に匂う芝さくら 坂本 賢一  
 三陸の津波を見たか花水木 坂本 賢一  
 さくら咲きあの日を思い涙する 坂本 賢一  
 柴又や寅さん偲び草のもち 坂本 賢一  
 トンネルの出口は近し蛍飛ぶ 榎本 真一(文卒)  
 冬桜小さく咲きし大樹かな 三橋 隆(文卒)

※俳句同好会を結成しました。皆さんもお気軽に句投句ください。

白門48会幹事  
 川瀬 俊吉  
 (理工学部卒)

白門48会会計監査  
 東海林 正  
 (法学部卒)

白門48会副幹事長  
 長谷川 孝雄  
 (理工学部卒)

## 四八会ニュース

### 山田博文群馬大名誉教授、国会に招致される！

2021年2月22日、四八会員で群馬大学名誉教授の山田博文氏は参考人として国会に招かれ、質疑応答で持論を展開した。招致されたのは、衆議院財務金融委員会(委員長…越智隆雄)。案件は「財政運営に必要な財源の確保を図るための公債の発行の特例に関する一部を改正する法律案(204国会開生)」というもの。

ほかに参考人として出席したのは、金融経済アナリストでS

## 学生会ニュース

### 学生会総会は秋に延期

MBC日興証券(株)金融経済調査部長の末澤豪謙氏、および明治大学商学部教授の水野勝之氏。対して質疑を呈する委員会委員は、越智委員長をはじめ、今枝宗一郎議員(自民)、太田昌孝議員(公明)、末松義親議員(立民)、清水忠史議員(共産)、青山雅幸議員(維新)、井上一徳議員(国民)といったメンバー。鋭い質問に答えること3時間5分、ほぼ休みなしに行われて、その様子は動画配信された。山田名誉教授の持論は「財源確保には消費税は下げる、法人税は上げる」というもの。この主張に対する賛同の反応がツイッターで拡散され、評判を呼んでいる。

四八会の上部団体である中央大学学生会(会長…久野修慈)は、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、5月に開催を予定していた支部長会議および定時協議員会・定時学生会総会を秋(未定)に延期すると発表しました。

### 学生会総会での表彰者2名決定

学生会には学生の表彰規定があり、学生会(支部を含む)の発展に貢献した学生を顕彰する制度がある。

### 年次支部ニュース第14号発行



四八会でも候補者の推薦を求められ、幹事長歴だけでも6年を超える佐藤幹事長、会発足以来会報発行を一手に担ってきた榎本会長を推挙した。

この度、その両名の表彰が決定し、秋に予定されている学生会総会で賞状を受け取る運びとなった。

### 48会史上初! オンライン総会を開催!

### 《総会のご案内》

2021年6月12日(土) 16時～

参加を希望する方は、予め幹事長(連絡先は下記)へ問い合わせ、お申し込みください。当日の資料を送付し、ミーティングIDとパスコードをお知らせします。

### 《会費納入のお願い》

白門48会は本年創立23周年を迎え、年間を通して全会員を対象にした各種同好会や定例懇親会などを活動の柱に、活発に事業を展開しております。

本年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、さまざまな事業計画が実施できない状況に見舞われておりますが、会報の発行やホームページの作成、各種連絡業務など、会の維持発展のために必要な事業は多く、その運営は皆様の会費で賄われます。

会の円滑な運営のために、なにとぞ会費納入にご協力くださいますようお願い申し上げます。

会費の納入方法は、逐年ごとの納付となっておりますので、単年度の納入が可能です。昨年納入を逃した方でも、本年の会費納入に支障を生ずるものではありません。思い立った時に納入していただいで結構です。

厳しい経済状況の折、まことに恐縮ではございますが、ご賢察のうえ格段のご配慮をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

### 白門48会 連絡先

幹事長 佐藤 愛子

〒192-0351 東京都八王子市東中野228-1101

F A X: 042-679-3329

携帯電話: 090-4098-7379

Eメール: ai-mimo.310.dm@amber.plala.or.jp

白門48会会長

中央大学商議員

中央大学学生会協議員

出版・編集なみきみち社代表

榎 本 真 一

(文学部卒)

白門48会副会長

中央大学学生会協議員

(株)ディスカバリー代表取締役

島 崎 修

(理工学部卒)